様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０２７２５

研究課題名（和文）大学における国際系組織－大学改革と国際化推進を目指す中での現状と課題－

研究課題名（英文）Current situation and remaining issues in internal organisation designated for internationalisation initiatives as university reform

研究代表者
大林　小織（Obayashi, Saori）

大阪大学・グローバルイニシアティブ機構・准教授

研究者番号：５０７９１２６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大学改革として推進されてきた国際化とその対応を担ってきた大学の中央管理部門の組織構造との間の関係性を見出した。国際化推進を支援する政府の補助金事業採択大学を対象として事例研究を行い、個々の大学における対応組織の変遷と現状課題の共通点や違いをもたらす要因を分析することにより、組織構造と国際化進展には一定の関係性があることが示唆された。また、海外調査により大学間の国際連携においては社会へのインパクトを目指す世界のトレンドによって、国際化の目的が変化しつつある現状を確認し、そのような新たな目的に対する組織的対応として国際系組織の役割が多様化し、その結果機能分化が一部で確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
わが国における大学国際化は補助金事業によりモデル事例を作り、大学間で共有ながら推進してきたといえる。大学の中央管理部門は大学改革の下、組織的意思決定とリーダーシップ強化を国際化対応の中心におき、ガバナンスのあり方に配慮しながら国際系組織の効果的な構造構築を図ってきた。これまで研究には見られなかったその組織編成プロセスを明らかにすることにより、国際化進展に影響を与える組織構造における重要な要素と制度的条件について示唆を得た。また、海外大学との比較により、わが国の国際化推進のための組織構造上の課題を指摘することができた。これらの分析結果は論文として広く国際的に発信し、社会と共有することとしている。

研究成果の概要（英文）：This study suggests the relationship between the organisational structure in the central administration department and the progress in internationalisation which has been promoted as university reform. The deep case studies of universities engaging in internationalisation initiatives through grant programmes identified factors that lead commonalities and differences between the process of restructuring and remaining issues in those case universities. In addition, the study on overseas universities and literature on internationalisation confirmed that the purpose of internationalisation is changing in a global trend towards bringing societal impact by international collaboration between universities. The study also shows the role of international offices/unit/centres has diversified as an institutional response to such global engagement and their functions are dispersed, shifting from the integrated structure in some cases.

研究分野：高等教育学、経営学

キーワード：大学改革　大学国際化　組織構造　ガバナンス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

わが国では、1980 年代より高等教育政策として大学の国際化が推進されており、現在に至るまで、教育の国際化を中心に豊富な研究が蓄積されてきた。他方、国際化は大学改革として推進されてきた経緯から、個別の大学ではそのマネジメント手法の開発にも注力されている。国際化は Knight（2004）、Hudzik（2011）の代表的な定義に示されるように、大学の全構成員によるすべての活動に国際的な要素を取り入れるプロセスであるとすると、極めて大きな組織改革となる。各大学における国際化の意義や個々の取り組みをいかに大学としてマネジメントし、組織的に遂行できるかに改革のスピードと成否の鍵があると考えており、ここに本研究の核心となる問いを設定した。

２．研究の目的

国際化は大学の主要機能である教育・研究・社会貢献すべてに含まれる横ぐしの要素である。しかし、多くの大学ではこれらの主要機能は理事・副学長間で担当が分かれ、それぞれの担当理事の下で関連する国際化に係る意思決定や取り組みが行われるケースが多くみられる。加えて、わが国の大学では、国際系の組織が事務系、教員系を含め複数存在することが多く、国際化に関する全学的な意思決定プロセスを迅速に行うことが難しい複雑な組織構造が見られる。

本研究は、国際化に向けた大学改革推進において中核となる国際オフィスを始めとする国際系組織を分析の対象とし、組織構造や機能における課題を明らかにし、わが国の大学の国際化加速に向けた組織の在り方を考察することを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、国際系組織を対象に経営学的アプローチから事例研究を行った。

まず、文献調査では、大学の組織内部の構造や組織の特性にかかる基本的な概念と理論を把握するとともに、欧米を中心に大学改革による組織マネジメントや組織変革に関する先行研究を整理した。また、関連資料として、大学国際化を推進する過去から現在進行中の補助金事業について、申請書、報告書およびアーカイバルデータを整理して分析した。さらに主として対象大学が公表するビジョン、事業計画書、報告書など国際化に関する各大学の取り組みやアプローチが把握できる資料の収集と分析にあたった。

これらの文献調査および分析に基づき、まずは各種補助金事業の評価に基づき、調査対象大学の中から 2 大学を対象にパイロットスタディーを実施した。当調査に基づき、対象全大学に対して実施する半構造化インタビューのプロトコルを作成し、リサーチデザインを行った。

加えて、国際的な大学間連携も国際化の具体的な取り組みであり、とりわけエラスムスプログラム等で長年にわたって大学としての国際化および国際事業のマネジメントに取り組む欧州の大学を対象として対応組織の構造について調査を実施した。

４．研究成果

本研究では、大学改革としての国際化推進を組織内部の構造に焦点を当てながら多面的に検討した。

（１）マネジメント上の課題と対応

対象とする国内大学の調査からは、大学内の活動全てにまたがる国際化の取り組みをいかに組織的に束ね、意思決定を行うのかが現在もなお中央管理部門における最大の課題であることが窺えた。対象大学の大半で国際化の取り組みをプロジェクトとして教育、研究とも一元的に推進するために、高いスキルを備えた専門人材を新規組織に配置する組織体制がとられた。このことによりプロジェクトとしては一定の成果を上げているが、他方、中央管理部門の他の組織の関与や国際化への意識づけという点では課題が見られた大学もあった。

（２）ガバナンスと組織構造

対象の多くの大学で国際化推進のために新規に設置された組織の大学としての意思決定ガバナンス内での位置づけについても当該組織の機能の有効性との関係性が示唆された。そのような組織が有する構造や機能と配置される人材の機能との関係性に、課題と国際化推進の鍵があることが確認できた。さらに、大学によって国際化を大学のビジョンにどのように位置づけているか、現状としてビジョンと国際化に対応する組織構造の関係性から窺える点があったことも

重要な成果の一つである。詳細は現在論文にまとめているところであるが、これらの命題を今後さらなる実証研究として深めていくこととしている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 大林小織	４．巻 15
２．論文標題 高等教育の国際化による社会へのインパクトー欧州イニシアティブの新たな研究領域ー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 経営戦略研究	６．最初と最後の頁 61-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Saori Obayashi, Toshio Araki	４．巻 (in press)
２．論文標題 Japanese university governance reforms: Challenges and future directions	５．発行年 2023年
３．雑誌名 EURAM 2023 Proceedings Transforming Business for Good	６．最初と最後の頁 (in press)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大林小織・石原俊彦	４．巻 28
２．論文標題 高等教育の市場化における 教育サービス・マーケティング ー価値共創の視点からー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ビジネス＆アカウンティングレビュー	６．最初と最後の頁 99-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大林小織	４．巻 第5号
２．論文標題 学術研究のインパクト評価－英国の研究評価をめぐる議論に見る課題の本質	５．発行年 2021年
３．雑誌名 CIPFA Japan ジャーナル（ISSN2423-8201）	６．最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 Saori Obayashi, Toshio Araki
2．発表標題 Japanese university governance reform: challenges and future directions
3．学会等名 European Academy of Management 2023 Conference（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Saori Obayashi
2．発表標題 Paradigm shift in internationalisation strategy at higher education institutions in Japan? - from seeking individual benefits to co-creating social value
3．学会等名 Comparative Education Society of Hong Kong 22nd Annual Spring Conference（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 大林小織
2．発表標題 高等教育の国際化による社会へのインパクトー欧州イニシアティブの新たな研究領域ー
3．学会等名 大学行政管理学会第25回定期総会・研究集会
4．発表年 2021年

1．発表者名 Saori Obayashi, Andrew Brown
2．発表標題 Engaging with the UN SDGs through global partnerships; Case Studies from Japan and the UK
3．学会等名 European Association for International Education (EAIE)（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Saori Obayashi
２．発表標題 Challenges in governance of internationalisation at universities in Japan
３．学会等名 The European HIgher Education Society（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	University College London			